



## 「命」を考える日

8月5日に細川洋(ほそかわよう)先生から、叔母にあたる森脇瑤子さんのお話をさせていただきました。当時13歳だった少女の日常生活や思いをから、戦争や原爆の悲惨さと恐ろしさや命の大切さについて考えさせられるお話であったと思います。

### 【生徒の感想】

命について考えることができました。一番心に残ったのは、瑤子ちゃんのお父さんが何も知らずに広島に帰ってきた時のことです。楽しめな長調の曲を短調にしたことで悲しいことを表していたことが残酷だと思いました。こんなことが二度と起こらないよう、僕も意識していきたいです。

3年1組 新宅くん



先生の話聞いて、今、私が幸せに生活できていることは奇跡のようにすごいことなんだなと思いました。実際に、ウクライナとロシアのように戦争が無くならないことはとても悲しいことだと思います。なので、今日話を子らから戦争が起こることがないように、周りの子や自分の子どもに伝えていこうと思います。

3年2組 津村さん

自分と同じぐらいの年齢の子どもが一生懸命生きていたのに、一発の原子爆弾で一瞬にして亡くなってしまったという話を聞いて、戦争は改めて恐ろしいものだなと思いました。それと同時に、今、当たり前で生きられていることに感謝しながら生きていきたいと思いました。

2年2組 松崎さん



私は細川先生のお話を聞いてみて、命は当たり前のようにあるものではないからホントに大切にしないと改めて思った。人の命だけでなく、いつも食べているご飯にも命があり、私たちはその命をもらっているのだから、毎回毎回たくさんの感謝の気持ちを込めて食べたい。

1年1組 西野さん

※今回の講演を忘れず、日々の生活や勉強ができる大切さを思い、二学期もいろいろな活動に頑張っていきましょう。